

2015年1月6日

## ＜取材のご案内＞

『第2回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム』を開催  
1月24日(土)午後2時～、於:東京・大手町「フクラシア東京ステーション」  
“飛躍するトランスレーショナルリサーチ”をテーマに米国研究製薬工業協会(PhRMA)と千葉大学が共催  
～若手研究者の成長と、産官学の連携を目指して～

米国研究製薬工業協会(PhRMA)は、千葉大学との共催により、来たる2015年1月24日(土)、東京・大手町「フクラシア東京ステーション」において、ライフサイエンスにおける若手基礎研究者を対象に、「第2回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム」を開催します。このシンポジウムは、創薬分野で若手基礎研究者が果たすべき役割の重要性に関して、グローバルな視点から再認識することを研究者たちに促すこと、研究意欲のさらなる向上、創薬分野で世界的に活躍できる人材育成に繋げることを目的に開催するもので、PhRMAとしては、2013年8月(東京大学・他と共催)に続く、第2回目の開催となります。

是非とも、取材をご検討くださいますようお願い申し上げます。

(※お手数ですが、別添返信用紙にてご取材意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます)

今回は、以下の3部構成での開催を予定しています。

### 【第1部】

創薬における豊富な経験と知見を有する、米国および日本の産・官・学それぞれの研究者による基調講演

### 【第2部】

一般公募により参加するアカデミアの若手基礎研究者と製薬企業等の開発担当者が6グループに分かれて、「今後自分たちが取り組むべきこと」について検討するワークショップと、トランスレーショナルリサーチ(以下TR)経験者が「人材育成のあり方」を討議するパネルディスカッションを同時並行で実施

### 【第3部】

第2部での討議内容を全参加者が集って総括

このシンポジウムを通じて、異なる世代・立場の間で、これからのTRのあり方を積極的にディスカッションできる場とテーマを提供したいと考えています。

日本国内では2002年から、基礎研究から臨床開発へと橋渡しするプロセスであるTRの基盤整備事業がスタートし、2007年からの5年間で下地作りがなされ、具体的な課題も挙げられてきました。2012年からの5年間は国際的に飛躍する“ステップ”の年だと言われています。課題を克服し、日本のTRがさらなる発展を遂げるためには、これまで以上に若手研究者が連携し、環境整備が急速に進む米国のTR事例に学ぶことが鍵であると考えられます。PhRMAでは、こうした背景から、基礎研究に携わる日本人の若手研究者を対象とした人材育成支援プログラム『ヤング・サイエンティスト・プログラム』を2013年から開始しました。このシンポジウムの他に、公募により選出した日本人若手研究者を2週間米国へ派遣する「マンスフィールド・PhRMA・リサーチ・スカラー・プログラム」を実施し、延べ19名に、政府や大学、製薬企業がいかに連携して創薬を推進し新薬を患者さんに届けているかを体験する機会を提供しました。(本年も継続して実施します)

開催概要は、次頁をご参照ください。

また本シンポジウムの詳細は、右記のウェブサイトからもご確認頂けます。 <http://yss2015.umin.jp/>

※この資料は、重工業研究会、厚生労働記者会、本町記者会、千葉県政記者クラブで配布しています。

この件に関する報道関係者からのお問い合わせ先  
「第2回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム」運営事務局  
(株式会社ジャパン・カウンセラーズ内)  
電話 03-3291-0118、Fax 03-3291-0223、Eメール [yss2014@jc-inc.co.jp](mailto:yss2014@jc-inc.co.jp)

## <開催概要>

～ 第2回 ヤング・サイエンティスト・シンポジウム ～  
「飛躍するトランスレーショナルリサーチ」  
—若手研究者の成長と、産官学の連携を目指して—

日時:2015年1月24日(土) シンポジウム 14:00～18:40 (懇親会 19:00～20:00)

会場:フクラシア東京ステーション(※地図は添付告知チラシをご参照ください)

主催:国立大学法人千葉大学・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催

後援:独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)・日本製薬工業協会(JPMA)

欧州製薬団体連合会(EFPIA)・厚生労働省

### プログラム:

#### ■ 開催挨拶

千葉大学 名誉教授・前学長 齊藤 康

#### ■ 第1部:講演会

「日本の医薬品開発イノベーション環境の現状を探る」

モデレーター:大分大学医学部臨床薬理学講座 教授 上村尚人

#### 基調講演1): 「米国でのトランスレーショナルリサーチ事例に学ぶ」

a. Translational Medicine for Drug Development in Immunology – Case Studies with a Focus on Collaboration

Senior Director, Head of Translational Medicine Science, Immunology, Janssen Pharmaceuticals  
Ian S Gourley

b. Catalyzing Translational Innovation

Director, National Center for Advancing Translational Sciences (NCATS) Chris Austin (Video 出演)

#### 基調講演2): 「日本におけるトランスレーショナルリサーチ事情」

a. PMDA が実施する薬事戦略相談の事業概要とその活用について

PMDA 審査マネジメント部薬事戦略相談課長 小池 恒

b. 新規機能ペプチドの同定から皮膚潰瘍治療薬の開発研究への道程

大阪大学大学院連合小児発達学研究科健康発達医学寄付講座教授 中神啓徳

b. 政府の医薬品研究開発推進施策について

日本医療政策機構エグゼクティブディレクター 宮田俊男

#### ■ 第2部:ワークショップ/パネルディスカッション

a. ワークショップ

「“基礎研究”と“臨床応用”を繋げるために…若手(基礎)研究者のアドバンテージとは？」

b. パネルディスカッション

「トランスレーショナルリサーチに関わる人材をいかに育成するか？」

モデレーター:千葉大学教授 医学部附属病院臨床試験部長 花岡英紀

パネリスト:上村尚人/Ian S Gourley /小池 恒 /中神啓徳/宮田俊男

#### ■ 第3部:総括

モデレーター:花岡英紀

#### ■ 閉会挨拶

PhRMA 在日執行委員会委員長 Tony Alvarez (MSD 株式会社 代表取締役社長)

#### ■ 懇親会

以上

《恐れ入りますが、1月21日（水）までにご取材意向をお知らせください》

1月24日（土） 14:00～  
PhRMA- 千葉大学共催  
「第2回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム」  
出欠連絡票

米国研究製薬工業協会（PhRMA） 広報事務局 （株式会社ジャパン・カウンセラーズ内） 行

FAX : 03-3291-0223

E-mail : phrma\_pr@jc-inc.co.jp

恐れ入りますが、ご出欠のどちらかを○で囲み、下記の必要事項をご記入の上、  
1月21日（水）までに、上記へご返信ください。

ご出席      /      ご欠席

貴社名      : \_\_\_\_\_

貴媒体名    : \_\_\_\_\_

部署名      : \_\_\_\_\_

お名前      : \_\_\_\_\_

TEL          : \_\_\_\_\_

FAX          : \_\_\_\_\_

E-mail      : \_\_\_\_\_

※演者、登壇者等への個別のご取材希望等がございましたらご記入ください。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

第2回 ヤング・サイエンティスト・シンポジウム

# 飛躍するトランスレーショナルリサーチ

— 若手研究者の成長と、産官学の連携を目指して

**主催** 国立大学法人千葉大学・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催

**後援** 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)  
日本製薬工業協会(JPMA) 欧州製薬団体連合会(EFPIA)  
厚生労働省

**参加料・懇親会費:無料**

**事前登録制:先着 200名** 下URLよりお申し込みください。  
<http://ysss2015.umin.jp/>

2015  
1/24  
Sat.

フクラシア  
東京ステーション

<http://www.fukuracia-tokyo.jp/>  
※東京都・大手町駅  
B6 出口直結  
東京駅日本橋口徒歩1分



## 開会挨拶

齋藤 康 (千葉大学名誉教授・前学長)

第1部: 講演会 14:00-15:25

**「日本の医薬品開発イノベーション環境の現状を探る」**

- モデレーター: **上村 尚人**  
大分大学医学部臨床薬理学講座 教授

基調講演 1)

**「米国でのトランスレーショナルリサーチ事例に学ぶ」**

a. 「Translational Medicine for Drug Development in Immunology Case Studies with a Focus on Collaboration」

**Ian S Gourley**

Senior Director, Head of Translational Medicine Science, Immunology, Janssen Pharmaceuticals

b. 「Catalyzing Translational Innovation」

**Chris Austin** (Video 出演)

Director, National Center for Advancing Translational Sciences (NCATS)

基調講演 2)

**「日本におけるトランスレーショナルリサーチ事情」**

a. PMDAが実施する薬事戦略相談の事業概要とその活用について

**小池 恒**

PMDA 審査マネジメント部薬事戦略相談課長

b. 新規機能ペプチドの同定から皮膚潰瘍治療薬の開発研究への道程

**中神 啓徳**

大阪大学大学院連合小児発達学研究所  
健康発達医学寄附講座教授

c. 政府の医薬品研究開発推進施策について

**宮田 俊男**

日本医療政策機構エグゼクティブディレクター

休憩~会場移動(15:25~15:40)

第2部: ワークショップ / パネルディスカッション  
15:40-17:00

a. ワークショップ (6グループに分かれて行います)

**「“基礎研究”と“臨床応用”を繋げるために・・・若手(基礎)研究者のアドバンテージとは?」**

b. パネルディスカッション

**「トランスレーショナルリサーチに関わる人材をいかに育成するか?」**

- モデレーター: **花岡 英紀**  
千葉大学教授  
医学部附属病院臨床試験部長

- パネリスト: **上村 尚人**  
**Ian S Gourley**  
**小池 恒**  
**中神 啓徳**  
**宮田 俊男**

休憩~会場移動(17:00~17:15)

第3部: 総括 17:15-18:40

- モデレーター: **花岡 英紀**

## 閉会挨拶

**Tony Alvarez**

PhRMA 在日執行委員会委員長  
MSD 株式会社代表取締役社長

懇親会 19:00-20:00

事務局

第2回ヤング・サイエンティスト・シンポジウム事務局 (株)ジャパン・カウンセラーズ内  
TEL. 03-3291-0118 E-mail: ysss2014@jc-inc.co.jp

CHIBA  
UNIVERSITY